



糖尿病と上手にお付き合いするために

新しい薬：SGLT2 阻害薬

新しい糖尿病治療薬が発売され、半年がたちました。どのような薬なのでしょう？

1. 血糖を良くするための新しい方法とは

今年、これまでと全く違う方法で血糖を下げる薬、7番目の内服薬が発売されました。これまでは、血糖を上げないためにはどうしたらいいのかという考え方で、さまざまな薬が研究され、発売されてきました。今回発売された薬は、尿に糖を捨ててしまうことで血糖値を下げるという、大変斬新な考え方で作られました。もともと糖尿病は、その名前からも

わかるように尿に糖がでる病気です。血糖を下げることで、尿糖を減らすのが、これまでの治療の目安でもあり、わかりやすい目標でもありました。ところが、この薬は尿糖を増やします。また、尿にカロリーが失われるため、体重を減らす効果もあります。しかし、誰にでも向く薬とはいえ、使い方にも注意が必要です。



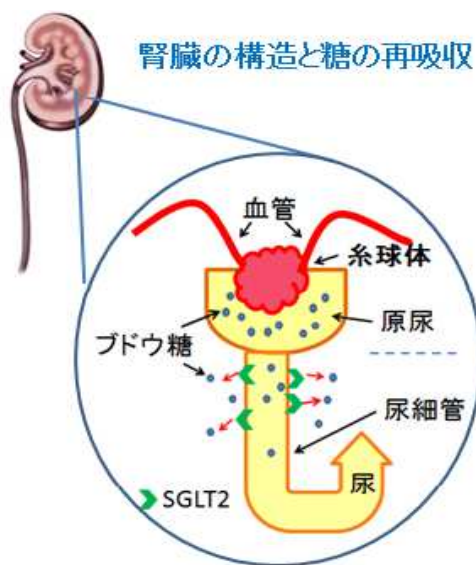
2. 血糖値が高いとなぜ尿糖が出るのでしょうか？

尿は腎臓で血液から作られます。糸球体という毛細血管が糸球玉のように集まった場所で、血液からしみだした最初の尿（原尿）には、血糖値と同じ濃度のブドウ糖が含まれています。その後、尿は尿細管と呼ばれる部分を通り、そこでほとんどの尿糖が吸収され、血液の中に戻ります。なにしろ糖は大事なエネルギーですから、できるだけ失わずに済むような仕組みになっているのです。

ところが、血糖値が高すぎて、原尿中のブドウ糖がとて多い場合、再吸収しきれずに尿の中に捨てられて、尿糖となります。

3. SGLT2 阻害薬という名前の意味は？

尿細管でブドウ糖を再吸収する時に使われるたんぱく質の名前が SGLT2 といいます。SGLT2 阻害薬は、そのタンパク質の働きをじゃまして、糖の再吸収を妨げ、尿に捨てられる糖を増やします。このとき水分の再吸収も妨げるため、尿量が増えます。



4. 副作用や注意すべきことは？

①低血糖

単独では心配ありませんが、インスリンやSU薬などのインスリン分泌促進薬を使っている場合は要注意

②脱水症

尿がふえ、脱水を起こしやすくなります。水分が十分取れないときは中止します。脱水を起こしやすい高齢者には向きません（65歳以上で使用する場合は全例登録が必要です）。脳梗塞の危険も増します。

③ケトアシドーシス

ブドウ糖は大切なエネルギー源です。体調不良で食事が取れない場合など、脱水症状とともにケトアシドーシスという重篤な合併症を起こす可能性があります。食事が取れない時には中止します。

④尿路、性器感染症

尿糖が増えるため感染症も増える可能性があります。常に清潔を心がけましょう。

⑤サルコペニア

サルコペニアとは筋肉が減少することです。ブドウ糖が尿に失われて不足すると、エネルギー源として脂肪だけでなく筋肉も消費してしまいます。やせている方や高齢者で起こりやすくなります。

⑥皮膚症状

発疹などの症状がでることがあります。

5. どんな患者さんに向いているのでしょうか？

この薬は体力があり肥満傾向のある、比較的若い患者さん、合併症の進行していない患者さんに向いています。まだ発売後半年ですので、最長で2週間分までしか処方できません。 内科 柳沢 徳山

